

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所アシストひおき		
○保護者評価実施期間	令和8年1月23日 ～ 令和8年2月6日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年1月23日 ～ 令和7年1月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、教員、作業療法士、保健師、看護師など専門スタッフを配置しており、1人1人の発達や特性、日常生活における課題を把握し、強みや可能性を伸ばしながら個々のペースで課題に向き合うことができるように支援している。	活動前後にミーティングを行い、利用児の状態をしっかりとアセスメントし、発達や特性の整理を行いながら支援の方向性や活動内容を検討している。 作業療法士がメインの活動内容も設定しており、より専門的な支援が提供できるようにしている。	内部研修の充実や外部研修へ積極的に参加すると共に、スタッフが自己研鑽を行い、より専門性の高い支援ができるようにする。
2	活動プログラムについて、利用児の課題に沿った活動内容になるように全スタッフが意見を出し合い、立案している。利用児の意見も取り入れ、楽しみの中で成長していけるように、日々変化を持たせている。また、戸外活動を取り入れ、様々な環境の中で社会性が養われるように支援している。	活動プログラムを立案する際は、利用児の課題等を基にねらいを定め、ねらいに沿った活動になるように立案している。静と動の活動のバランスを考えながらプログラムを立案している。 人間関係の構築や協調性等の社会性を養えるように、共同製作を取り入れている。 活動前にスタッフ全員がねらいを確認し、ねらいに沿った支援を実施している。	就学や将来を見据え、今後も『学校ごっこ』や『お仕事ごっこ』を取り入れ、安心して次のステップが踏めるように支援する。 活動内容がパターン化しないように情報収集に努め、利用児が『楽しみ』『やってみたい』と思えるような活動プログラムを作成していく。
3	家庭での悩みや不安の軽減が図れるよう、相談があった際は相談しやすい日時や環境をセッティングし、迅速に対応している。必要に応じてセラピストとの面談も設け専門的視点でのアドバイスも実施している。 きょうだい児に対する悩みや相談についても、利用児同様、迅速に対応している。	相談があった際は迅速に対応する事で、少しでも保護者の精神的負担が軽減できるように努めている。 保育所や認定こども園、幼稚園等や家庭での悩みや不安に対して、必要時関係機関と連携しながら安心して過ごせるように支援している。	今後も相談しやすい環境作りに努めていく。送迎の時間も大切に使い、保護者や関係機関との信頼関係を構築していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会が少ない。	図書館や公園等、戸外活動で他のこどもと触れ合う事はあるが、機会が少ない。	子育て支援センター等へ行き、交流できる機会の有無について情報収集すると共に、可能な範囲で参加する。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等の機会がない。	近隣住民の方との交流はあるが、事業所の行事に招待する事はない為、今後検討していく。	夏まつり、ハロウィン、クリスマス会など、事業所の行事に地域住民の方が参加できる環境を作ると共に、Instagram等で幅広く周知できるようにする。 地域の高齢者サロンへ行き、情報を収集すると共に、可能な範囲で参加し交流を図る。
3	保護者同士やきょうだい同士が交流する機会が少ない。	年1回保護者会を開催しており保護者同士の交流の場としているが、就労している保護者が多く参加が難しい状況にある。 きょうだい同士が交流する機会がない。	保護者の意向も確認しながら保護者会の回数を検討し、少しでも多くの保護者が交流できるようにしていく。 祝祭日等を利用し、きょうだい同士が交流できる機会を可能な範囲で作る。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型事業所アシストひおき

公表日

令和8年2月9日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	1			広い部屋で伸び伸びと活動できています。 利用者が多数の場合、十分とは思えない。	現在のスペースでも十分に体を動かす活動ができるよう、グループ分けや間隔を確保し環境調整に努めております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9			1	手厚くありがたいです。 その日の活動に何人の職員が対応しているのか分からない。	基準よりも多く配置しております。 セラピストも配置しており、専門性を持って支援に努めております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	1		1		階段に段差があり、足台を設けております。必要時、スロープの設置や職員配置を致します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10				子どもに合わせてそれぞれ支援して下さっています。 子どもに寄り添った考えでよく理解してくれています。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10				丁寧に迅速に計画を作成・説明して頂き安心しました。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10				具体的に提案して頂く事で見通しをもてました。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	1			月の活動についてのお便りを頂く事で親子ともに見通しをもって通所でできています。	活動プログラムを立案する際は、利用児の課題等を基にねらいを定め、ねらいに沿った活動になるように立案しております。また、活動内容がパターン化しないように情報収集に努め、利用児が『楽しみ』『やってみたい』と思えるような活動プログラムを立案しております。
保護者	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	1	5		中央図書館の『おはなしの会』や公園等で地域の子どものとの交流はありますが、今後も可能な範囲で検討致します。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10				利用する時に分かりやすく説明してもらいました。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10				きちんとされています。 モニタリングして子どもが今どういう状況なのかきちんと聞いてくれます。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8			2		毎年保護者会でセラピストによる講話を実施しております。 保護者からの相談等につきましては、LINE・電話・面談で対応し共通理解や対応方法を一緒に考え不安等の軽減に努めております。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10				アシストひおきとは長年のお付き合いなので子どもの事をよく理解してくれています。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10					

への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5			5	未参加の為、不明。	保護者会を開催し、保護者同士が交流できる機会を設けております。 きょうだい同士の交流につきましては、可能な範囲で検討致します。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10				話しやすい雰囲気でも適宜相談できる体制づくりがなされていると感じます。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10				毎月分かりやすい活動表を下さるので何を するかすぐ分かります。 その日の活動をメールで報告してくれるのでありがたいです。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	1		1	記憶がないですがされていると思います。	全てのマニュアルを策定しており、契約の際に説明しておりますが、ご不明な点等ございましたらお気軽にお尋ね下さい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9			1		年2回は実施しております。内容等につきましてはおたよりに掲載しておりますのでご覧下さい。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	1		1	記憶がないですがされていると思います。	屋内外の危険箇所チェック、送迎・安全徹底マニュアルを策定し、子ども達の安全確保に努めております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	1		1	怪我や事故がないのでわかりません。	事例が生じた際は、保護者へ速やかに連絡し、状況の説明をしております。また必ず報告書を提出し、事業所内で協議。再発防止に努めております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10				安心して信頼して利用しています。 先生方が子どもの特性・性格をよく理解してくださっているので、信頼・安心して通所できています。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9			1	いつも楽しみにしています。 色々な経験をさせて下さりありがとうございます。 通所を楽しみに、安心して過ごせている事 がありがたいです。 毎日のように大好きな先生の名前で「明日 〇〇先生くる？」と聞いてきます。	楽しみの中で課題が少しずつでもクリア できるように活動内容を充実させていき ます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10				一部「わからない」にチェックしましたが、 不満は全くないです。 いつも親身になって対応して下さいありがとうございます。 通所するようになってから、送迎・トイレ・自由遊びの中での発信等、目に見えての 成長があり親としてとても嬉しく感謝して います。 療育の日はどうだったか聞くと「楽しかった」と笑顔で答えてくれます。 手厚く色々な活動をして下さるので大満足 です。	励みになる嬉しいお言葉ありがとうございます。 今後もより良いサービスの提供に努めて まいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所アシストひおき			公表日		令和年8月9日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準より多く配置している。 セラピストも配置しており、専門性を持って支援に努めている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		一目で分かるようにイラストで提示したり、玄関の段差には足台を設け対応している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		リスクマネジメントを行い、環境整備（衛生管理・感染防止対策・安全配慮）を徹底している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		安心して過ごせるように個別の部屋を設置している。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々、ミーティング等を行い、情報共有した上で職員が意思統一を図り支援に当たれるように努めている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年1回、アンケートを実施。評価表やご意見を基に課題や改善点を把握し、業務改善に努めている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		活動前後に必ずミーティングを行い、職員の意見を取りまとめながら業務改善に努めている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		ボランティアや来訪者を対象にアンケートを実施予定。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内部研修の充実や外部研修へ参加し、事業所内にて伝達講習を行っている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事業所の支援プログラムをHP上に公表し、誰でも閲覧できる環境を作っている。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		利用児や保護者の意見を第一とし、他関係者からの情報も踏まえながら課題やニーズを整理し、客観的に分析した上で5領域に沿って計画を作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画の原案を基に、会議を開催し支援計画について追加・修正を行い、全職員が共通理解できるようにしている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画に沿った支援ができるように、課題に沿った活動内容とし、ミーティングにて利用児それぞれの状態把握や次回の支援について検討し実行している。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		発達検査等の結果を共有している。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		利用児や保護者の意見を第一とし、他関係者からの情報も踏まえながら課題やニーズを整理し、目標に向けて具体的な支援内容を設定し支援に努めている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当者が中心となり、全スタッフが意見を出し合い、利用児の課題に沿った活動内容になるように立案している。			

快	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		楽しい療育を目指し、「できた」という経験を多く積めるよう、日々変化を持たせている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団活動に加え、個別活動も組み込むように計画作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		利用児の特性を踏まえながらミーティングを行い、支援目標・内容・役割等、細かく確認した上で支援に努めている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援の振り返り・気付き・課題等を共有し、次の活動に繋げ質の向上に努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用児の成長や課題についてポイントを押さえ記録し、支援の検証や改善に繋げている。また、記録漏れがないようにダブル確認をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		概ね6か月に1度は見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		利用児の状態をよく理解した参加者が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と連携しながら支援に努めている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関係機関と支援内容等の情報共有や相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学先の学校と支援内容等の情報共有や相互理解を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		研修や連絡会へ参加している。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		中央図書館や公園等で地域のこどもと一緒に過ごす時間を設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		活動内容や発達状況・課題等について、毎回連絡メールにて報告。 保護者からの相談等については、LINE・メール・電話・面談で対応し共通理解に努めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		毎年保護者会を実施し、セラピストによる講話を実施している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に書面をお渡しした上で説明を行い、不明な点には随時対応している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		利用児や保護者が安心して自分の意思を発信できるように、相談できる環境作りや相談手段を個別に合せ対応している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を全て説明した上で保護者から同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて相談支援の時間をセッティングし、悩みや不安の軽減が図れるよう親身に対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会を開催し、保護者同士が交流できる機会を設けている。今後も保護者の意見を伺いながら検討していく。 きょうだい同士の交流については、可能な範囲で検討していく。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申入れがあった場合、担当者が迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HP・Instagram・おたより・LINE・メール等で活動や行事予定・内容、連絡事項をお知らせしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護に関する基本方針及び規定に基づきスタッフに周知を図り、十分に注意し取り扱っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		面談や電話・LINE・メール等を利用している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		見学は随時行っているが、事業所の行事としては計画がない為、今後は可能な範囲で検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		全てのマニュアルを策定し、契約の際に説明している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に訓練を実施していると共に、年2回防災対策委員会を開催し、迅速に対応できるように努めている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		詳細の情報収集に努め、適切に対応している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		詳細の情報収集に努め、適切に対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		送迎・安全徹底マニュアルを策定していると共に、定期的に屋内外の危険箇所チェック等を実施し、利用児の安全確保に努め支援している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約の際に説明している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例が生じた際は必ず報告書を提出し、事業所内で協議。再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部研修へ参加し、伝達講習を実施すると共に、年2回は事業所内にて虐待防止研修を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在該当児はいないが、身体拘束についても年2回事業所内にて研修を行い、保護者に対しての説明書も作成している。	